



2023年度

国際交流基金賞 受賞候補者推薦のお願い

国際交流基金賞は、国際交流基金設立の翌年である1973(昭和48)年から始まり、2023年度で50回目を迎えます。本賞では、学術、芸術その他の文化活動を通じ、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があり、引き続き活動が期待される個人又は団体を顕彰して参りました。2012(平成24)年度からは一般の皆様からも幅広いご推薦を頂戴しております。多くのご推薦をお待ちしております。

募集締切 | 2023年2月28日(火) (必着)

国際交流基金
JAPAN FOUNDATION



独立行政法人 国際交流基金
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-4 四谷クルーゼ
Tel: 03-5369-6075 FAX: 03-5369-6044
E-mail: kikinsho@jpf.go.jp <https://www.jpf.go.jp>

対象となる個人／団体

日本国内又は海外の個人又は団体。ただし、自薦（推薦者が所属する組織や、組織の長を推薦することを含む）は選考の対象外とします。

対象とならない個人／団体

- (1) 国もしくは地方公共団体の現職公務員又はこれらに準ずる機関（特殊法人、独立行政法人等）の現職役職員であって、国際的活動を役職の本務とする個人（研究職にある個人を除く）。ただし、過去に、異なる身分において賞の趣旨に合致する貢献がある場合には、選考の対象となることがあります。
- (2) 国内外を問わず、国及び地方公共団体の行政機関並びにこれに準ずる機関。
- (3) 国内の団体で、主として公的資金によって運営されている機関及び当該機関に関わる法律に基づいて設立された機関等、公的性格の強い団体。
- (4) 日本政府又は国際交流基金が支援している団体で、補助金・助成金等の金額が当該団体の年間総予算の過半を占める団体。
- (5) 推薦者と組織的又は資金的に密接な関係にある団体。
- (6) 営利活動、宗教活動、政治活動、又は選挙活動を主とする個人又は団体。
- (7) 科学技術等、国際交流基金の活動分野以外の分野で主たる活動をする個人又は団体。
- (8) 姉妹都市間又は学校間交流による友好親善を目的とした活動や趣味での活動、活動の成果還元対象が特定のグループ・サークルに限られる活動を主とする個人又は団体。
- (9) 複数の団体の共同・合同による活動を1件の推薦とすることは可能。ただしその場合、その活動が一体不可分で、個々の団体単位の活動に分割し得ないものである必要があります。

対象となる活動分野

国際交流基金の主要事業分野である、「文化芸術交流」「日本語」「日本研究・国際対話」の3つの分野のいずれかを中心とした専門的な活動、又はこれらの分野を超えて横断的に活動する個人又は団体を対象とします。

- 文化芸術の分野において、日本の文化芸術の海外への紹介や発信、共同研究・制作等の創造的な活動を通じ、日本と諸外国の相互理解の増進や、国際文化交流に大きく貢献のあった個人又は団体。
- 日本語にかかわる教育・研究、指導者の育成や組織化のために継続的に優れた活動を行い、又は日本語による表現や翻訳など言語としての日本語に強く結びつく活動を行うことで、教育・研究の発展や日本語の国際的地位の向上、日本と諸外国の相互理解の増進に貢献した個人又は団体。
- 日本研究又は日本に関連する知的交流等国際対話の分野において、指導性・独創性に優れた活動を行い、諸外国における日本研究の発展や、教育・研究を通じた日本理解の促進、日本と諸外国の知的ネットワークの強化に大きく貢献している個人又は団体。
- その他、国際文化交流活動において顕著な活動を行い、国際相互理解の増進に大きく貢献した個人又は団体。

選考方法について

各分野における専門家らによる第一次選考ののち、国際交流基金が委嘱する有識者から成る選考委員会により、受賞者又は受賞団体を決定します。受賞者の発表は2023年7月を予定しています。

選考基準について

以下の3点を重視して選考を行います。

1	活動実績	日本国内外において、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があるか。
2	継続性・将来性	今後も活動を継続し、国際文化交流の促進と深化に貢献が期待出来るか。
3	活動領域	活動の成果が特定の地域・団体に還元されるのではなく、より広い地域・国、分野へと普及しているか。

推薦方法

1 推薦件数 計5件以内

2 推薦書フォームの電子データは、下記 URL からダウンロードしていただくか、 「kikinsho@jpf.go.jp」まで電子メールにてご請求ください。

<https://www.jpf.go.jp/j/about/award/apply/>

※推薦書フォーム用紙の郵送を希望される場合は、基金賞事務局宛にご連絡ください。

3 推薦書送付先

推薦書は、電子データ（Microsoft Word ファイル形式）を「kikinsho@jpf.go.jp」まで電子メールにてお送りください（電子メールでの送付が難しい場合には、FAX 又は郵送で下記へご送付ください）。なお、お送り頂いたデータ・書類は返送できませんのでご了承ください。

E-mail kikinsho@jpf.go.jp

T E L 03-5369-6075 F A X 03-5369-6044（国際交流基金賞事務局宛）

郵便 〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-6-4 四谷クルーセ

独立行政法人 国際交流基金 広報部

国際交流基金賞事務局宛

4 記入上の注意

記入にあたっては、お分かりになる範囲でご記入ください。また、審査の参考になる資料があれば添付してください。なお、推薦者名は公表いたしません。

授賞について

原則として3件。受賞者には、正賞（賞状）と副賞（賞金）を授与します。

授賞式について

受賞者又は受賞団体の代表者を東京に招待して授賞式を行います（2023年秋を予定）。受賞者又は受賞団体代表者には、授賞式及び当基金が指定する行事にご出席頂く他、受賞記念講演の実施もお願いする予定です。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更となる可能性がございます。

2022年度 国際交流基金賞受賞者

※2022年10月19日 東京で授賞式を開催しました。

ロベール・ルパーージュ 【俳優、脚本家、舞台・映画監督】【カナダ】

ロベール・ルパーージュ氏は、自身が舞台に立つ俳優で演出家、劇作家であり、創作集団としてカナダで創設したエクス・マキナを率い、演劇、オペラ、映画そしてサーカスまでその活動領域は広範囲に及ぶ。特に、最新のテクノロジーを果敢に取り入れた独自の演出は、これまでの常識を覆すものとして世界から高い評価を受けている。

日本との関わりも深く、広島を題材にした作品『太田川七つの流れ』等演出作品の来日公演や、日本人アーティストとのコラボレーションを活発に行う等日本の舞台芸術界に大きな影響を及ぼしている。こうした彼の活動は国際相互理解の促進に貢献してきており、今後ますますの活躍を期待して国際交流基金賞を授与する。



©V. Tony Hauser

社団法人韓日協会 【韓国】

社団法人韓日協会は日韓両国の友好親善と共同繁栄を促進することを目的として 1971 年に設立された。その後今日に至るまで 50 年にわたり、日韓両国間の相互理解の基盤となる日本語教育分野において、青少年層を対象とした未来志向の地道な活動を続けている。

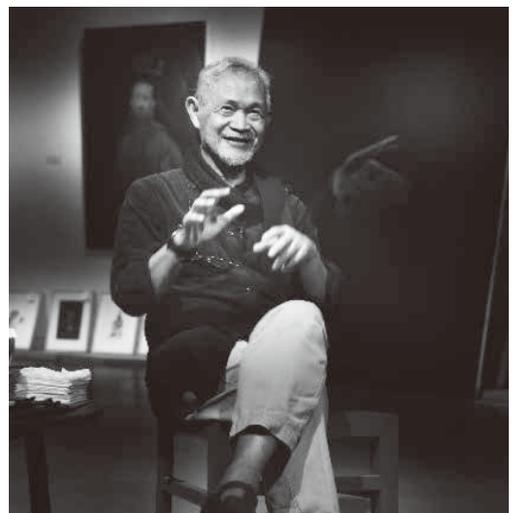
韓国の中高生を対象とした日本語学力コンテスト、大学生を対象とした日本語翻訳大会、「李秀賢記念事業」を毎年実施する等、若者の人材発掘・育成事業に関わってきた。また、日本留学&日本就職フェアの実施を通して若者のキャリア支援にも尽力している。

このように長年にわたり青少年を対象とした多様な交流活動を通して日韓両国の相互理解・友好親善並びに人材育成の促進に貢献してきた。今後ますますの活躍を期待して国際交流基金賞を授与する。



グナワン・モハマド 【詩人、作家、画家】【インドネシア】

グナワン・モハマド氏は、同時代のアジアにおける知的巨人の一人である。ジャーナリストとして、市民活動家として、そして詩人や劇作家として、きわめて多面的な才能を放つインドネシアを代表する知識人である。グナワン氏は 1971 年に週刊誌テンポ (Tempo) を発刊し、インドネシアにおける自由と民主主義の重要性を訴え続けた。グナワン氏の活動は広く、詩や戯曲、そして美術等の分野でも多彩な能力を発揮し、文筆活動とともにアート全般の普及にも寄与した。日本との関係では、1997 年に国際交流基金・国際文化会館共催のアジア・リーダーシップフェローとして来日、それ以来さまざまな分野で関係が拡大した。今後とも、アジアを中心とするグローバルな視野での日本・インドネシアの知的交流におけるグナワン氏の存在は大きい。



これまでの受賞者

● 国際交流基金賞 ● 国際交流奨励賞
2008年度より国際交流基金賞と国際交流奨励賞を統合。

年	賞	受賞者	
2022	令4	ロベール・ルパージュ (俳優、脚本家、舞台・映画監督) [カナダ] 社団法人韓日協会 [韓国] グナワン・モハマド (詩人、作家、画家) [インドネシア]	
	2021	令3	是枝 裕和 (映画監督) [日本] 宮田 まゆみ (笙奏者) [日本] ハノイ国家大学外国語大学日本語文化学部/ ハノイ貿易大学日本語学部/ ハノイ大学日本語学部 [ベトナム] イルメラ・日地谷=キルシュネライト (ベルリン自由大学教授) [ドイツ]
		令2	新型コロナウイルス感染拡大により中止。
2019		令元	谷川 俊太郎 (詩人) [日本] インドネシア元日本留学生協会 (プルサタ) [インドネシア] エヴァ・パウシュ=ルトコフスカ (ワルシャワ大学教授) [ポーランド]
	2018	平30	多和田 葉子 (小説家/詩人) [日本] 津川 雅彦 (俳優) [日本] *国際交流基金特別賞 細川 俊夫 (作曲家) [日本] サラマンカ大学 スペイン日本文化センター [スペイン] *故・津川雅彦氏の貢献をたたえ特別に授与した。
		2017	平29
2016			平28
	2015		平27
		2014	平26
2013			平25
	2012		平24
		2011	平23
2010			平22
	2009		平21
		2008	平20
2007			平19

年	賞	受賞者	
2006	平18	ジョー&悦子・ブライス (財団心遠館 代表) [米国] 山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会 [日本] サンクトペテルブルク国立大学 アジア・アフリカ学部 [ロシア] 金 容徳 (ソウル大学国際大学院院長) [韓国]	
	2005	平17	宮崎 駿 (アニメーション映画監督) [日本] フィリピン教育演劇協会 [フィリピン] 中国日語教学研究会 [中国] タバススム・カシミリー (前大阪外国語大学ウルドゥー語外国人教師) [パキスタン]
		2004	平16
2003			平15
	2002		平14
		2001	平13
2000			平12
	1999		平11
		1998	平10
1997			平9
	1996		平8

これまでの受賞者

● 国際交流基金賞 ● 国際交流奨励賞

年	賞	受賞者
1995	平7	千 宗室 (茶道裏千家家元) [日本]
		ドナルド・リチー (作家、映像史家) [米国]
		ハジ・アブドール・ラザク・ビン・アブドール・ハミド (マラ工科大学予備教育センター、ルックイースト政策プログラム主任) [マレーシア]
		国宝修理装演師連盟 [日本]
1994	平6	ハインリッヒ・ブファイファー (アレキサンダー・フォン・フンボルト財団事務総長) [ドイツ]
		河竹 登志夫 (早稲田大学名誉教授/比較演劇学) [日本]
		パイシット・ピパッタナクン (ナショナル・アッセンブリー事務局長) [タイ]
		講談社インターナショナル [日本]
1993	平5	ヨゼフ・ピタウ (グレゴリアナ大学学長) [イタリア]
		武満 徹 (作曲家) [日本]
		タチャーナ・リヴォヴナ・ソコロヴァ=デリュエシナ (翻訳家) [ロシア]
		岩波ホール [日本]
1992	平4	スタン・タクディル・アリシャパナ (ナショナル大学学長/日本研究) [インドネシア]
		フリッツ・フォス (ライデン大学名誉教授/日本研究) [オランダ]
		黒沼 ユリ子 (ヴァイオリニスト、アカデミア・ユリコ・クロヌマ校長) [日本/メキシコ在住]
		ピーター・コーニツキ (ケンブリッジ大学助教授/日本研究) [英国] 林 望 (東横学園女子短期大学助教授/古典文学) [日本]
	国際日本語普及協会 [日本]	
1991	平3	韓 炳三 (韓国国立中央博物館館長/考古学、美術研究) [韓国]
		イアン・ニッシュ (ロンドン大学名誉教授/日英関係史) [英国]
		アルゼンティン日本協会 [アルゼンティン]
		財団法人日本シルバークラフ協会 [日本]
1990	平2	梅棹 忠夫 (国立民族学博物館長/民族学) [日本]
		ヴィエスワフ・ローマン・コタンスキ (ワルシャワ大学名誉教授/日本研究) [ポーランド]
		東京大学出版会 [日本]
		インドネシア文化交流財団 [インドネシア]
1989	平元	アレクサンダー・スラヴィック (ウィーン大学名誉教授/民族学、アジア研究) [オーストリア]
		デービッド・マッケクラン (ニューヨーク・ジャパノ・ソサエティ顧問) [米国]
		細野 昭雄 (筑波大学教授、経済学/ラテンアメリカ研究) [日本]
		外国人留学生問題研究会 [日本]
1988	昭63	夏 衍 (中国文学芸術界連合会副主席、中国電影家協会主席/小説、劇作) [中国]
		小澤 征爾 (指揮者、ボストン交響楽団音楽監督) [日本]
		ジャン=ジャック・オリガス (国立東洋言語文化研究所教授/日本語、日本文学) [フランス]
		トロント日系文化会館 [カナダ]
1987	昭62	ジェームズ・W・モーレイ (コロムビア大学東アジア研究所所長/国際関係、日本外交史) [米国]
		中根 千枝 (東京大学名誉教授、(財)民族学振興会理事/社会人類学) [日本]
		ローケッシュ・チャンドラ (インド文化国際アカデミー理事長/仏教学) [インド]
		ヨーゼフ・クライナー (ボン大学教授/日本民族学) [オーストリア]
1986	昭61	フォスコ・マライニ (イタリア日本研究学会会長/文化人類学) [イタリア]
		ジャパン・ソサエティ・北カリフォルニア [米国]
		飯田 昭太郎 (プリティッシュ・コロムビア大学準教授/印度学、仏教学) [日本]
		日蘭学会 [日本]
1985	昭60	エレノア・H・ジョーデン (コーネル大学教授/言語学、日本語教育) [米国]
		ベルナルド・フランク (コレージュ・ド・フランス教授/日本文学、宗教思想) [フランス]
		国際教育振興会 [日本]
		日本中国文化交流協会 [日本]
1984	昭59	前田 陽一 (国際文化会館専務理事) [日本]
		ジョン・G・クロフォード (前オーストラリア国立大学学長/経済学) [オーストラリア]
		エドワード・G・サイデンステッカー (コロムビア大学教授/日本文学・日本文化) [米国]
		川喜多記念映画文化財団 [日本] AFS国際文化交流財団 [米国]

年	賞	受賞者
1983	昭58	鈴木 鎮一 (才能教育研究会会長) [日本]
		ドナルド・キーン (コロムビア大学教授/日本文学) [米国]
		ルネ・シフェール (国立東洋言語文化研究所所長/日本研究) [フランス]
		国際学友会 [日本] ユネスコ・アジア文化センター [日本]
1982	昭57	天野 芳太郎 (ペルー天野博物館名誉館長) [ペルー]
		黒澤 明 (映画監督) [日本]
		マリウス・B・ジャンセン (プリンストン大学教授/日本研究) [米国]
		アメリカ・カナダ 11 大学連合日本研究センター [在東京] ジ・アジアティック・ソサエティ・オブ・ジャパン [在東京]
1981	昭56	ウルク・アブドゥル・アジズ (マラヤ大学副学長/経済学) [マレーシア]
		G・リチャード・ストーリー (オックスフォード大学名誉教授/日本研究) [英国]
		東方学会 [日本]
		出版文化国際交流会 [日本] 日本棋院 [日本]
1980	昭55	岩村 忍 (京都大学名誉教授/東洋学) [日本]
		ジョージ・C・アレン (ロンドン大学名誉教授/日本研究) [英国]
		ヒュー・ボートン (コロムビア大学アジア研究所上級研究員/日本研究) [米国]
		アフリカ協会 [日本] 日本語教育学会 [日本]
1979	昭54	松本 重治 (国際文化会館理事長) [日本]
		チャールズ・B・ファーズ (教育家、アジア研究者) [米国]
		ロベール・ギラン (ジャーナリスト) [フランス]
		栗原 健 (日本外交文書編纂/近代日本外交、政治史) [日本] オーストラリア国立大学豪日経済関係研究委員会 [オーストラリア]
1978	昭53	高木 八尺 (日本学士院会員、東京大学名誉教授/米國政治史) [日本]
		フランク・J・ダニエルズ (ロンドン大学名誉教授/日本語教授法) [英国]
		ジェイムズ・L・スチュアート (アジア財団日本駐在代表) [米国]
		言語文化研究所付属東京日本語学校 [日本] 講道館 [日本]
1977	昭52	ロナルド・P・ドーア (サセックス大学教授、同大学開発理論研究所特別研究員) [英国]
		石橋 長英 (日本国際医学協会理事長/医学/小児科・血清化学) [日本]
		東京大学法学部付属明治新聞雑誌文庫 [日本]
		国際教育情報センター [日本] 株式会社サイマル・インターナショナル [日本]
1976	昭51	ジョン・W・ホール (イェール大学教授、同大学アジア言語・文学科学科長/日本近代史) [米国]
		ロバート・E・ウード (スタンフォード大学教授、同大学国際問題研究センター所長/政治学) [米国]
		東洋文庫 [日本]
		ドイツ東アジア文化協会 [在東京] 福岡ユネスコ協会 [日本]
1975	昭50	吉川 幸次郎 (京都大学名誉教授、東方学会理事長) [日本]
		エドウィン・O・ライシャワー (ハーバード大学教授、元駐日大使/日本研究) [米国]
		アジア学生文化協会 [日本]
		日仏会館 [日本] 欧州日本研究協会 [欧州]
1974	昭49	J・ウィリアム・フルブライト (元米国上院議員、フルブライト教育計画推進者) [米国]
		バーナード・H・リーチ (陶芸家) [英国]
		日本国際交流センター [日本]
		ジャパニーズ・カルチュラル・ソサエティ・シンガポール [シンガポール]
1973	昭48	セルジュ・エリサーエフ (ハーバード大学教授、イェンチン研究所所長/日本研究) [米国]
		国際文化会館 [日本]
		ジャパン・ソサエティ [米国]
		上智大学 [日本]